

令和7年度 自己評価計画書

石川県立金沢辰巳丘高等学校

【重点目標1】多様な背景のある生徒一人ひとりがそれぞれの進路希望を実現できるようにするため、学習の個別最適化などの工夫によって自己肯定感や学習意欲を向上させ、自主・自律の精神を育む。						
具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	評価の手段
①きめの細かい個人面談と計画的なキャリア教育の実践により、個々の生徒が目標を明確化させ、有意義な高校生活を送ることができるよう支援する。また、学校行事や探究学習、部活動で得た達成感が将来の目標設定につながるよう工夫する。	進路指導課	探究活動と連携して進路決定に必要な自己理解や主体的に取り組む姿勢の育成に努めており、約8割の生徒が本校のキャリア教育を肯定的にとらえている。また、近年は学習プラットフォームや大学講義動画視聴サービスの導入、求人票のオンライン検索・閲覧体制の整備等が進んでいる。	【満足度指標】 本校でのキャリア教育が計画的かつ効果的に機能し、生徒の進路目標が明確化している。	キャリア学習（将来の生き方や仕事について考え、必要となる力を伸ばす学習や活動）が自分の役に立っていると答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、12月に調査する。(生徒によるアンケート)
②生徒が学ぶことの楽しさを体感したり学ぶことの意義を実感したりできるような授業実践を目指し、全ての教員が授業改善に努める。また、引き続き、ICTを授業に効果的に活用するスキルを磨く。	教務課	授業に集中して取り組んでいる生徒の割合は、令和6年度のアンケート調査では6割弱にとどまっている。教員がさらなる授業改善を行い、生徒が楽しみながら深い学びにつながる授業を増やしていきたい。	【満足度指標】 生徒が学ぶ意義を理解し、楽しみながら授業に参加し、授業に集中して取り組んでいる。	授業に集中して取り組んでいると答える生徒の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、12月に調査する。(生徒によるアンケート)
	教務課 情報課	全教員がICT機器を効果的に活用した授業改善を積極的に行っているが、ICT機器の活用だけでは生徒の学力や学習意欲の向上につながらない場面もみられる。ICT機器の効果的な使い方や指導方法の工夫についての研究を継続的に行うことで、授業実践力を上げていく。	【努力指標】 年間を通して、ICT機器の効果的な活用や指導方法の工夫を組み込んだ授業実践を継続的に行っていている。	ICT機器の効果的な活用や指導方法の工夫を組み込んだ授業を実践していると答える教員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、12月に調査する。(教員によるアンケート)
③生徒の学習状況を適切に評価し、生徒の実態に合わせた授業改善を絶えず行うことで、個に応じた指導を充実させる。	教務課	多くの教員は、短いスパンで評価を生徒にフィードバックしながら授業改善に取り組んでいる。個に応じた指導は本校の多様な生徒たちに有効であると考えられることから、従来の取組を継続していく。なお、評価の内容や時期については、不斷の見直しを行う。	【努力指標】 各教科で指導と評価の一体化を実現するために、授業評価を参考に授業の改善・充実をはかる一連のサイクルを確立する。	指導と評価の一体化の趣旨を理解し、授業改善のサイクルを実践していると答える教員の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、12月に調査する。(教員によるアンケート)
④生徒が授業以外で学ぶ習慣を身につけるために、ICT機器を活用して学校外で学習する予習・復習のための課題の提示や、定期テスト等と結びつけた計画的な学習指導を行う。	教務課	学習時間が1時間以上の生徒の割合は近年増加しており、令和6年度は約7割であった。今後も、学年団の粘り強い指導と各教科の工夫により、生徒の意識を向上させたい。	【成果指標】 放課後学習や自己実現のための学習を含めた授業以外の学習時間が最低限、確保されている。	平日の学習時間（授業以外）が1時間以上であると答える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、12月に調査する。(生徒によるアンケート)

【重点目標2】生徒が豊かな人間性や社会性を身につけるため、協働的な学びや地域と連携した探究活動を通してコミュニケーション力や課題発見力を育むとともに、挨拶や時間管理をはじめとした、より良い生活習慣の確立を促す。

具体的な取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	評価の手段
①協調性やコミュニケーション力を育むために、探究活動等において地域や外部の方々と積極的に関わる機会を充実させる。	教務課	「総合的な探究の時間」では、生徒が外部の方々と交流する機会を設けており、そのことが生徒の人間力育成につながっている。今後もこうした取組を継続するとともに、協働学習や交流に苦手意識のある生徒への支援など、より効果的な交流の方法を研究していく。	【成果指標】 「総合的な探究の時間」が、コミュニケーション能力など社会で必要とされる資質・能力の育成に資するものとなっている。	「総合的な探究の時間」での活動を通して、協調性やコミュニケーション力が身についたと答える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。 (生徒によるアンケート)	7月、12月に調査する。
②生徒自らが地域や保護者の方々とかかわる行事を通じて、主体性や社会性を身につけ、一人ひとりが充実感・達成感を得ることができるような生徒支援を行っていく。	生徒課 各学年	生徒会が中心となり、生徒主体で辰巳祭等の学校行事を行っていく土壤が形成されてきているが、その一方で学校行事以外の日々の活動において、積極的に参加している生徒はそれほど多くない。今後は多くの生徒が学校生活の中で充実感を得ることができるよう工夫していく。	【満足度指標】 生徒が生徒会行事に主体的に関わり、より積極的に参加し、充実感・達成感を得ることができる。	学校行事や生徒会活動に積極的に参加していると答える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。 (生徒によるアンケート)	7月、12月に調査する。
③教員一人ひとりが発達支持的な生徒指導の実践に取り組むことで、いじめ等の未然防止に努める。また、いじめの兆候を見逃さず、組織的な早期対応に努める。	生徒課 教育相談室	近年、重大事案につながるようないじめではなく、全体的に落ち着いてはいるが、大きな問題に発展しそうな人間関係のいざこざも散見される。今後も「自己存在感の感受」、「共感的な人間関係の育成」、「自己決定の場の提供」、「安全・安心な風土の醸成」の視点を重視して教育活動を行っていく。	【成果指標】 生徒同士、あるいは教員と生徒との間の人間関係が好ましいものとなり、いじめ等の悩みやSOSを生徒が教員に届けやすい風通しの良さが生まれる。	本校には、悩みごとや困りごとを先生に相談しやすい雰囲気があると答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 (生徒によるアンケート)
④生徒の遅刻状況に関する情報を全教職員で共有し、個人及び学級・学年ごとの集団等にそれぞれ対応した指導を行い、時間や期限を守ることの大切さを自覚させる。また、保護者との連携を密にし、遅刻の減少を目指すことで規範意識を高める。	生徒課	遠方から通学している生徒や中学の時から不登校傾向の生徒の割合が多く、また、本校への交通アクセスも不便であることから、遅刻を繰り返す生徒の割合が多い。現状をふまえ、個に応じた指導を心掛け、生活習慣に改善の余地がある生徒に対する指導を重点的に実施していく。	【成果指標】 生活習慣が原因と考えられる遅刻を繰り返す生徒が減少する。	年間を通して遅刻5回以上の生徒の割合が A 15%未満である B 20%未満である C 25%未満である D 25%以上である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	年度末に調査する。

【重点目標3】保護者や地域から信頼される学校づくりを推進するとともに、生徒が切磋琢磨できる環境の維持・向上を図るため、学校の魅力や生徒の活躍を積極的に発信する。

具体的な取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	評価の手段
①探究学習や学校行事、芸術コースの活動等、本校の特色ある教育活動の様子を積極的かつ即時性をもってホームページに掲載、発信していく。	総務課	ホームページは中学生やその保護者に対する有効な情報提供のツールである。学校行事・学校内の様子に関してその都度、担当部署が発信を速やかに行う習慣は定着しており、今後も積極的な情報発信を行う。一方、情報が更新されていないままになっている古い情報も掲載されており、内容の整理が必要である。	【努力指標】 全ての教員が、ホームページで複数回の情報発信を行っている。	担当する部署（課・学年等）や部活動におけるホームページの更新回数が、年3回以上であると答える教員が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。 (教員によるアンケート)	7月、12月に調査する。
②地域及び近隣の小・中学校、大学等との交流活動を通して本校の教育活動への理解と協力を促進する。また、その情報を各種の広報活動を通して発信していく。	総務課各コース	様々な活動に対して事後の広報には取り組めている。今後は、メールによる保護者への事前案内や、マスコミの活用など、広報活動の充実に取り組みたい。	【満足度指標】 地域との交流活動等について、その取組内容が保護者等にしっかりと伝わっている。	各種の交流活動等について、広報活動を通して学校の取組がよくわかると答える保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。 (保護者によるアンケート)	7月、12月に調査する。
③中学校に対して丁寧な広報活動を行い、本校を志願する生徒を増やす。特に芸術コースについては、生徒が対外的なイベントに参加することで、コースの特色をアピールする。	管理職 総務課 芸術課	近年、入学生の確保が課題となっている。本校生徒のうち、金沢市内の中学校出身者が約80%を占めている。令和8年3月における金沢市内の中学校卒業者は前年度から150人以上減少することが予想され、本校にとって大変厳しい状況にある。	【成果指標】 様々な行事を通して、本校の魅力を中学生、保護者及び中学校教員に伝えることにより、志願する生徒数を増やす。	本校を志願する生徒数が A 80人以上である B 70人以上である C 70人未満である	C評価の場合は、結果を分析して改善策を検討する。	3月の出願状況により判断する。

【重点目標4】教育活動の効果をより一層高めるため、職場の心理的安全性の確保や業務の効率化等の取組を通して、学校や教員のウェルビーイングの向上に努める。

具体的な取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	評価の手段
①働き方を再考・工夫し、すべての職員が、生徒一人ひとりに丁寧に関わりながらも、学習指導・生徒指導などの業務に専念できる環境づくりをさらに進めていく。	管理職 各課・室 各学年	令和6年度には、不測の事態が生じたために年度途中に業務分担が増えた教員が複数おり、業務の平準化に対する満足度は高いとはいえない。 これまで以上に業務の平準化を行った上で、管理職の声かけや業務の整理、アドバイス等を行ながら、「教員の働き方改革」や「ワークライフバランス」の実現に向けてさらなる取組を推進したい。	【満足度指標】 全職員が、働き方改善に向けた組織的な取組を肯定的に捉えている。	業務の平準化や部署間の連携により、働き方を改善する努力がなされていると答える教員が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	C評価以下の場合は、結果を分析して改善策を検討する。 (教員によるアンケート)	7月、12月に調査する。